

NEDO における制度評価・事業評価について

1. NEDO における制度評価・事業評価の位置付けについて

NEDO は全ての事業について評価を実施することを定め、不断の業務改善に資するべく評価を実施しています。

評価は、事業の実施時期毎に事前評価、中間評価、事後評価及び追跡評価が行われます。

NEDO では研究開発マネジメントサイクル（図1）の一翼を担うものとして制度評価・事業評価を位置付け、評価結果を被評価事業等の資源配分、事業計画等に適切に反映させることにより、事業の加速化、縮小、中止、見直し等を的確に実施し、技術開発内容やマネジメント等の改善、見直しを的確に行っていきます。

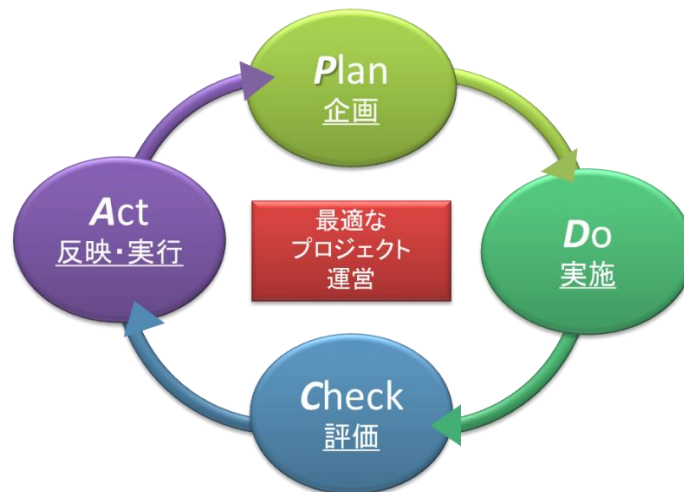


図1 研究開発マネジメントサイクル概念図

2. 評価の目的

NEDO では、次の3つの目的のために評価を実施しています。

- (1) 業務の高度化等の自己改革を促進する。
- (2) 社会に対する説明責任を履行するとともに、経済・社会ニーズを取り込む。
- (3) 評価結果を資源配分に反映させ、資源の重点化及び業務の効率化を促進する。

3. 評価の共通原則

評価の実施に当たっては、次の5つの共通原則に従って行います。

- (1) 評価の透明性を確保するため、評価結果のみならず評価方法及び評価結果の反映状況を可能な限り被評価者及び社会に公表する。
- (2) 評価の明示性を確保するため、可能な限り被評価者と評価者の討議を奨励する。
- (3) 評価の実効性を確保するため、資源配分及び自己改革に反映しやすい評価方法を採用する。
- (4) 評価の中立性を確保するため、外部評価又は第三者評価のいずれかによって行う。
- (5) 評価の効率性を確保するため、研究開発等の必要な書類の整備及び不必要な評価作業の

重複の排除等に務める。

4. 制度評価・事業評価の実施体制

制度評価・事業評価については、図2に示す実施体制で評価を実施しています。

- ① 研究評価を統括する研究評価委員会をNEDO内に設置。
- ② 評価対象事業毎に当該技術の外部の専門家、有識者等を評価委員とした研究評価分科会を研究評価委員会の下に設置。
- ③ 同分科会にて評価対象事業の評価を行い、評価報告書が確定。
- ④ 研究評価委員会を経て理事長に報告。

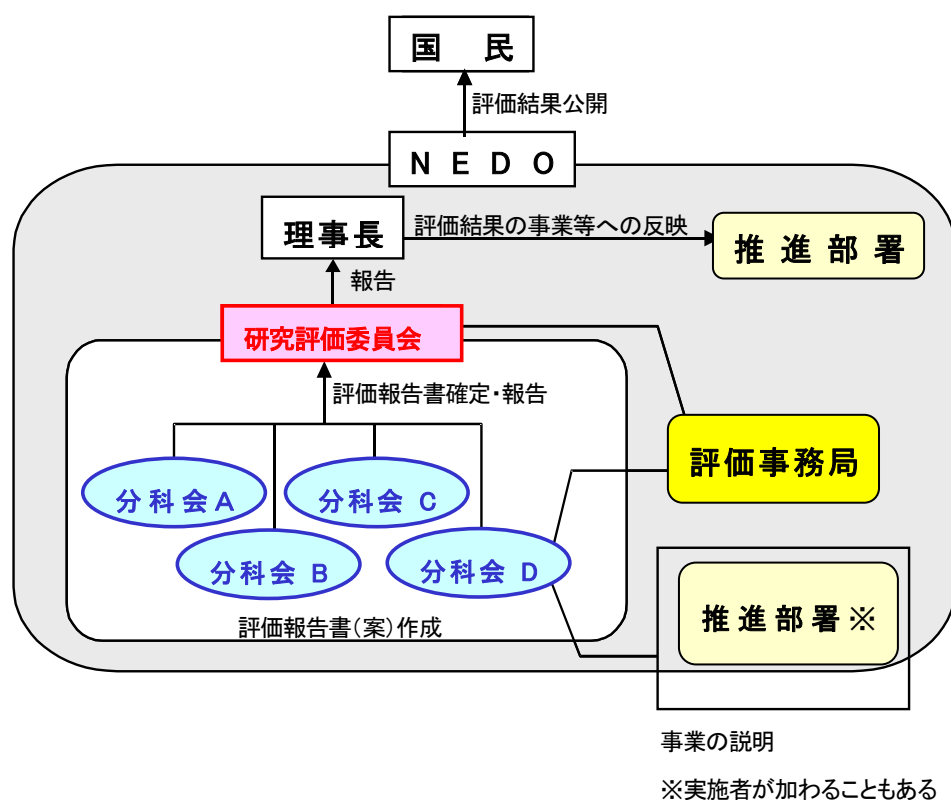


図2 評価の実施体制

5. 分科会委員

分科会は、対象技術の専門家、その他の有識者から構成する。

研究評価委員会「ゼロエミッション石炭火力技術開発プロジェクト クリーン・
コール・テクノロジー実用化可能性調査／クリーン・コール・テクノロジー
推進事業」（事後評価）事業評価に係る
評価項目・評価基準

1. 必要性（位置付け、目的、目標等の妥当性）

- ・ 政策における「事業」の位置付けは明らかであったか。
- ・ 政策、市場動向等の観点から「事業」の必要性は明らかであったか。
- ・ NEDO が「事業」を実施する必要性は明らかであったか。
- ・ 「事業」の目的は妥当であったか。
- ・ 「事業」の目標は妥当であったか。

2. 効率性（実施計画、実施体制、費用対効果等の妥当性）

- ・ 「事業」の実実施計画は妥当であったか。
- ・ 「事業」の実実施体制は妥当かつ効率的であったか。
- ・ 「事業」によりもたらされる効果（将来の予測を含む）は、投じた予算との比較において十分と期待できるか。
- ・ 情勢変化に対応して「事業」の実実施計画、実施体制等を見直している場合、見直しによって改善したか。

3. 有効性（目標達成度、社会・経済への貢献度）

- ・ 最終目標を達成したか。
- ・ 社会・経済への波及効果が期待できる場合、積極的に評価する。

研究評価委員会「ゼロエミッション石炭火力技術開発プロジェクト クリーン・コール・
テクノロジー実用化可能性調査／クリーン・コール・テクノロジー推進事業」

(事後評価) 事業評価
評価コメント及び評点票

委員名

コメントして頂く際の留意点

1. 評価項目に対して、説明・配布資料等（事業原簿、基本計画、パワーポイント資料）に基づき、評価コメントの作成及び評点付けをお願い致します。
2. 評価コメント作成にあたりましては、単に「妥当である。評価できる。」という表現だけではなく、可能な限り、妥当である理由、評価できる理由などについて、具体的な記述をお願い致します。
3. 評価コメントは評価報告書に掲載され、公開されることとなりますが、「知的財産保護のため非公開とすべき事項」、「自主的企業活動に影響を及ぼすおそれのある事項」、「個人情報に関すること」、「差別的表現」、「事実と相異なる意見」等、その影響を考慮して一定の配慮が必要な場合は、コメントの趣旨に反することのない範囲で、評価事務局からコメントの変更等をお願いする場合があります。
4. 参考点付けにあたりましては、各評価項目について4段階（A、B、C、D）で評価をお願い致します。
5. 後日、メールにて本文ファイル（Word 形式）を送付致します。本電子ファイルにご記入頂き、下記の担当宛に電子メール、或いはFAXにてご返送頂けますようお願い致します。

記

期 限：平成28年12月12日（月）まで

送付先：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
評価部 内田 裕 宛

以上

研究評価委員会「ゼロエミッション石炭火力技術開発プロジェクト クリーン・コール・テクノロジー実用化可能性調査／クリーン・コール・テクノロジー推進事業」(事後評価) 事業評価
に対するコメント及び評点票

***注意:「枠」の大きさにとらわれずコメントをお願いいたします。**

(“3行以内”ということではございません。以下コメントも全て同様です。)

1.事業の必要性について

- ・政策における「事業」の位置付けは明らかであったか。
- ・政策、市場動向等の観点から、「事業」の必要性は明らかであったか。
- ・NEDOが「事業」を実施する必要性は明らかであったか。
- ・「事業」の目的は妥当であったか。
- ・「事業」の目標は妥当であったか。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

2.事業の効率性について

- ・「事業」の実施計画は妥当であったか。
- ・「事業」の実施体制は妥当かつ効率的であったか。
- ・「事業」によりもたらされる効果(将来の予測を含む)は、投じた予算との比較において十分と期待できるか。
- ・情勢変化に対応して「事業」の実施計画、実施体制等を見直している場合、見直しによって改善したか。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

3.事業の有効性について

- ・最終目標を達成しているか。
- ・社会・経済への波及効果が期待できる場合、積極的に評価する。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

4. 総合評価／今後への提言

【評価委員コメント欄】

<総合評価>

<今後に対する提言>

研究評価委員会「ゼロエミッション石炭火力技術開発プロジェクト クリーン・コール・テクノロジー実用化可能性調査／クリーン・コール・テクノロジー推進事業」(事後評価) 事業評価
 に対する評点票 (参考点)

【記入方法、結果取扱いについて】

- ・各項目について、A、B、C、Dのいずれかを記入してください。
- ・記入の結果は、「参考」として評価書には公表しません。

| 評価項目 | 評点 |
|---|-------------|
| 事業の必要性について 非常に重要 →A 重要 →B 概ね妥当 →C 妥当性がない又は失われた →D | [A B C D] |
| 事業の効率性について 非常によい →A よい →B 概ね適切 →C 適切とはいえない →D | [A B C D] |
| 事業の有効性について 非常によい →A よい →B 概ね妥当 →C 妥当とはいえない →D | [A B C D] |

研究評価委員会「ゼロエミッション石炭火力技術開発プロジェクト クリーン・コール・
テクノロジー実用化可能性調査／クリーン・コール・テクノロジー推進事業」
(事後評価) 事業評価
評価報告書の構成について

1. 評価報告書の目次

下記目次の第1章を委員会でまとめる。

目次

はじめに
審議経過
委員名簿
評価概要

第1章 評価

1. 事業の必要性について
2. 事業の効率性について
3. 事業の有効性について
4. 総合評価／今後への提言

第2章 評価対象事業に係る資料

1. 事業原簿
2. 基本計画（または直近の実施方針）
3. 評価分科会公開資料

参考資料 1 評価分科会議事録

参考資料 2 評価の実施方法

第1章のまとめ方

評価項目毎に以下のように各委員のコメントを取りまとめる。

第1章の取りまとめ方の例（案）

例：1. 位置付け・必要性について

委員の意見を取りまとめて作成した文書。

主な具体的指摘事項

（肯定的意見）

- ・
- ・

（改善すべき点）

- ・
- ・